

## 課金の怖さ

A 氏 (10 代)

自分は、小学5年生の時に、課金のことでトラブルになり親や祖母に対して、暴力や暴言をしてしまい警察や児童相談所の方によって保護されました。

自分はゲームが好きで中々ルールを守れなくて、一日の中で、半日以上やって昼夜逆転をして生活リズムがくずれてしまいました。くわえて、ゆううつにもなって薬を飲んでも治らなくてスクールソーシャルワーカーの先生が札幌太田病院を見つけてくださって通院することになりました。また、ゲームことでトラブルになり、自傷行為をしてしまって入院しゲーム依存症と言われました。

入院している中で自分は集中内観療法を受けることになりました。内観をしている中で、ゲームや課金は家庭内トラブルのもとだなどと思いました。内観療法は自分を見つけ直す良い機会だと思いました。内観療法を終えて退院し家族とゲームの時間を決めました。最初は少し守れなかったりもしたけど、通院をしながら時間を決めてそれを守れたら空いている時間に家の手伝いをしていました。

課金について気づいたことは、最初は楽しくやっていたつもりだったけどあとになってきたらだんだん親や祖母に暴力をふるってまで課金がしたくなって、色々な人にめいわくをかけて申し訳ないと今は思っています。今は、ゲームの時間は守れるようになってきて、課金もいっさいやらなくなっています。そのかわりに親の手伝いをしたりして過ごしています。心境の変化として今になって課金するのはダメだし、大人になってやってもダメだなどと思います。

今後の目標はまず、2度と課金はしない、親を怒らない、病気を治すために外に行ったり、デイサービスに行つて気分を変えていくこともしたいです。